資料２

# 地域計画の策定に向けた取組事例

**地元企業の農業参入による「へべす」の産地化**　｜　**宮崎県日向市（西川内地区、深谷地区）**

## 地域のへべす生産の課題

○現状
- 園地管理作業は１年を通じて手間がかかる
- 生産者が高齢化し未管理園地が増加
- 園地が市内各地に散在。小規模園地が多い

○課題
- 作業の効率化、省力化、低コスト化
- 栽培技術の数値化
- 遊休農地、未管理園地、散在農地の活用・再生
- 新規参入者の募集

## 参入の経緯

✓ 日向特産の「へべす」が生産者の高齢化等により、産地が衰退している現状を地元企業が懸念。
✓ 「へべす」の農産物としての可能性は大きく、県がブランド化に着手したが、拡がりが限定的。
✓ 規模拡大には企業参入が不可欠と判断。
✓ 特産の「へべす」生産に取り組みたいという想いから、農業法人を設立し、農業参入を決意。

## 参入のポイント

✓ 産地ビジョンで生産部会が危機感を共有
✓ 農地の借受けに当たり、地元の営農組合役員が地権者等を戸別訪問し、企業参入を丁寧に説明
✓ 日向市も農地中間管理事業等の説明等を行うなど積極的に参加
✓ 農業改良普及センター及びＪＡが中心となり技術的支援
✓ トップクラスの成績を残している先輩農家からの支援

## 今後の予定

✓ 中山間地域など担い手不在地域において、企業参入は可能性の一つ
✓ 地域のネットワーク網構築による『知恵の共有』や企業、地域双方への丁寧な理解醸成など、行政のコーディネートが重要